令和５年度
人間力総合演習の学び

至学館大学人間力開発センター

発行によせて

至学館大学生＋人間力総合演習＝自己実現

人間力総合演習って何？

令和5年度より、人間力開発センター長を拝命し、「人間力って何？」、「人間力総合演習って本学生はどう受け止めている？」というところから出発しました。

至学館大学では、人間力総合演習は、ディプロマポリシーです。学生にとっては受け入れざるを得ないものです。したがって、これまでは「人間力総合演習は60時間ボランティアをすればいいでしょう？」という消化的で受動的な活動で、ややもすると、部活動やアルバイトの妨げと感じていると見受けられました。

そこで、学生自身が、必修の60時間を、消化的なものにするのではなく、自分で自分を育てるという「個々のねらい」をはっきりさせ、主体的に活動に取り組むことで、成果が自信へとつながっていくと考えました。

そのためには、講義で、「なぜその活動をするのか」、「自分の目標は何なのか」等を考えたり深めたりし、それを伝えることが必要であることが分かりました。

このまとめは、令和5年度のみなさんのこれまでの主体的な活動の取り組みを記録したものです。

発表者のみなさん、縁あって発表を引き受けてくれてありがとう！発表することが自分への挑戦になったという人もいたと思います。

また、発表を聞いて感じたことなど質問や意見を発表に添えていたみなさん、ぜひ、次回は発表も経験してみてください。発表の先は、次へのスタートです。

講義を行うに当たり、これまで話したことのない人や学科の違う人と出会ってほしいと願い、座席を指定して行いました。今後もこうした考えのもと、みなさんとともに、人間力総合演習を充実することができるようにブラッシュアップさせていきましょう。

至学館大学人間力開発センター長　久林　直美

〈人間力開発センタースタッフからのメッセージ〉

ボランティアコーディネーションのノウハウを活かし、学生の皆さんがより興味・関心が持て、より多くの学びが得られる活動になるよう、学びの場づくりを行っています。

当然のことながら、皆さんの多くは「必修だから」、「単位のため」といった動機から活動をはじめることと思います。しかし、地域の方や学科をこえた仲間との関わりを通じて、多様な刺激を受け、次第に気持ちの変化が生じることがあります。「意外と面白かった」と感じ、継続して活動を行う学生もいれば、60時間に達しても、終えることなく活動にのめり込む学生もいます。おそらく、「他人事から自分事」へ意識の変化が起こり、行動の変容につながっているのでしょう。

より多くの学生が、社会と関わり、主体的に何かに取り組むことで面白さを実感し、その学びが自分の成長やキャリアにつながっていくことを願い、これからも学びの場づくりに努めていきます。

佐藤　匠

社会に出る前に、人間力総合演習の活動を通して、色々な人との出会いがあって、考えたり、想ったり、新たな発見があったり、そして時には悩んだり‥様々なことを学んだり経験をできること。それは、とても「しあわせ」なことだと、私は思います。

もしかしたら、今は「苦手なこと」、「面倒くさいこと」と捉えてしまう学生もいるかもしれません。なんとなくわかります。まずは1歩踏み出すことができるよう応援しています。

センターの前に貼ってある、たくさんの笑顔の写真、よかったら見に来てください。

皆さんが少しでも前向きな気持ちで取り組めるよう、お手伝いが出来たら嬉しいです。

牧村 由香里

目　次

現代教養科目「人間力総合演習」　p.2

ねらい　p.2

人間力総合演習「講義」　p.2

講義の実施　p.2

コーチング演習の開講　p.3

学生の感想　p.4

全体発表　p.4

全体発表者一覧　p.5

学生の発表内容　p.7

発表を聞いた学生の感想　p.51

活動企画一覧　p.52

現代教養科目「人間力総合演習」

ねらい

本学の教育理念「人間力の形成」を実現するための軸となる授業科目であり、「自己を育てる人間の育成（自己形成力）」をねらいとする。学生は、自身の目標達成、課題克服をめざし、講義、演習（人間力開発センター企画、教員企画、自己企画）に取り組む。

単に、ボランティア活動を行うことを推奨しているのではなく、必ず自分の考えを持ち、自分で課題克服など目標を設定し、取り組むといった主体的な行動（実践）を求めている。

人間力総合演習「講義」

講義の実施

本授業科目のねらいである「自己を育てる人間の育成（自己形成力）」を学生に対し十分に伝え、定着をはかるため、令和5年度より新たに「講義」を設定した（カリキュラムは次頁参照）。

講義では、学生の主体的な行動（実践）が引き起こされるよう、意見・感想や自身の取り組みを互いに発表し合うなど対話形式を取り入れ展開した。特に1年生については、学科をこえた関わりが生まれるよう学科混合となるよう座席配置を工夫した。

令和5年度の講義のカリキュラム

1年生	
回　数	内　容
第1回	・オリエンテーション ・「自分を知ろう」 ・「人間力100」 ・演習計画
第2回	外部講師による セルフコーチング演習
第3回	実施した活動の共有 およびグループ内発表
第4回	・全体発表、質疑応答 ・次への目標設定

2～4年生	
回　数	内　容
第1回	・オリエンテーション ・「人間力ってどんな力？」 ・「人間力100」 ・演習計画
第2回	・グループ内発表 ・計画の修正
第3回	全体発表、質疑応答

コーチング演習の開講

「自己を育てる人間の育成（自己形成力）」の考えは、人の目標達成や課題克服のサポートを目的とするコーチングの考え方および手法と軌を一にする。これを応用展開することで学生の目標達成や課題克服が実現され、自己形成力につながっていくと考える。また、コーチングスキルを習得・向上させることは、聞く、質問、承認といったコミュニケーションスキルの習得・向上に結び付く。対話形式の講義をより有意義なものとするためにも学生のコミュニケーションスキルの習得、向上はより重要である。

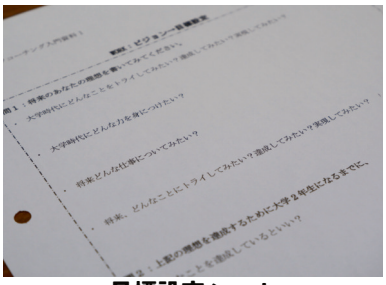
稲垣 友仁 氏

このような考えのもと、令和5年度より1年生を対象とした講義でコーチング演習を開講した。講師にはプロコーチとして活躍する稲垣 友仁 氏（共創コーチング株式会社 代表取締役）を迎え、学生はコーチングについて学びを深めた。演習では、コーチングフローやセルフコーチングのプロセスを学び、コーチングの基本スキルである「聞く、質問、承認」を意識した実践を展開した。数人の学生の協力のもと、稲垣氏によるデモンストレーションを行い、ポイントを確認した。

◀ 講義の様子

◀ コーチングのデモンストレーションの様子

ビジョン設定及び目標設定の演習では「大学時代に挑戦したいこと」、「大学時代に身に付けたいこと」、「将来就きたい仕事」、「将来、挑戦したいこと、達成したいこと」を各々書き出したのち、2人1組となり交互に内容を共有した。聞き手は質問やフィードバックを行った。


目標設定シート

2人1組になりワークをする様子

成長し続ける人の特長として、① 目標を持ってチャレンジしている（ストレッチ）、② 振り返りを実践している（リフレクション）、③ 目的意識を持って取り組んでいる（エンジョイメント）ことが挙げられると学びを深めた。

学生の感想

PDCAサイクルを行い
目標達成を目指したいと思います。

コミュニケーションの上手い取り方を
感じ取れたようなお話でした。

コーチングをうけることで
自分にちょっと自信が持てました。

セルフコーチングをして自分の目標を明確にできて隣の人に言葉にして話せたので良かった。
これから自分が何をすれば良いか知れた。

自分の目標に対して
もっと叶えたい気持ちが強くなった。

明確な目標を立ててペアの子に話して
改めて教師になりたいという気持ちが
強まったし、教職を頑張ろうと思った。

自分の自信のないことを打ち明けたとき、
なんで自信がないのかを明確にして言ってくれたので自分の弱いところがわかりました。

セルフコーチングを初めてやってみて、自分の目標は何かあまり定まっていなかったけど、今日を機にしっかり考えることが出来たので良かったです。自分の目標を達成できるまで大学4年頑張っていきたいと思いました。

全体発表

各学年の最終講義は、数人の学生による全体発表を行った。総勢26名の学生が登壇し、1人約15分程、自身の取り組みを発表したのち質疑応答を行った。学生は、企画に参加した動機、活動内容、主体的に取り組んだ点や経験の生かし方等を発表した。発表者は次の通り。

全体発表者一覧

学年	学科	企画名	氏名
1学年	健康スポーツ科学科	大府市子ども体育教室運営スタッフ	石村 玲乃
		こども園行事の看板製作	塩尻 圭祐
		スポーツ指導（浜松聖星高等学校男子サッカー部）	杉本 鷹弘
		子どもの居場所スタッフ活動（安城市民交流センター）	前田 和慶 松尾 迅
	体育科学科	こども園行事の看板製作	米本 匠吾
	栄養科学科	母校・刈谷東高校折り紙部で行う『折り紙ワークショップ』『折り紙部展示会スタッフ』	北川 絢音
		公民館まつりにおける「竹を使ったブース出展」	志宮 愛
		公民館まつりにおける「竹を使ったブース出展」	吉見 奏葉
	こども健康・教育学科	北山子どもチャレンジ大会	加藤 茜
2学年	健康スポーツ科学科	大府東浦花火大会　企画スタッフ	鈴木 愛一郎
		大府夏まつり活動　企画スタッフ	萩原 朱里
		スポーツ指導（豊山中学校女子バスケットボール部）	田邊 香
	体育科学科	FC刈谷ホームゲームサポート活動	安形 一輝
	栄養科学科	スマイルビーチプロジェクト	織田 妃菜
	こども健康・教育学科	手芸クラブの講師等（大府市共長児童センター）	遠藤 由菜 川畑 花音 笹野 夢華

学年	学科	企画名	氏名
3学年	健康スポーツ科学科	公民館まつりにおける 「竹を使ったブース出展」	黒地 陽翔 大畑 貴寛
	栄　養　科　学　科	スポーツ鬼ごっこ交流大会2023 運営スタッフ	谷 怜夏
	こども健康・教育学科	こども園行事の看板製作	片山 隼児 高橋 真大
4学年	健康スポーツ科学科	こどもの学習支援活動	縣 周慈
		バレーボール教室「ブイチタ」 運営スタッフ	鈴木 慶人
		大府東浦花火大会　企画スタッフ	林 虎之介

以降、発表内容は、了承を得た学生のみ掲載している。

石村 玲乃さん

学科・学年　健康スポーツ科学科　1年

企画種別　人間力開発センター企画

企　画　名　大府市子ども体育教室運営スタッフ

取り組むきっかけ・参加理由

私は、「高校の体育教員になりたい」との思いがあり、将来に生かせる活動がないかと探していたところ、友人にこの活動を一緒にやってみないかと誘われて活動を始めました。対象は、小学2、3年生ですが、細かい工夫をきちんと学べると思い挑戦しました。

活動の内容

教室では、開始1時間前に私達学生が集合し、プログラム内容を話し合って決めます。大学の授業で習った体つくり運動なども取り入れました。その後、実際に自分達も体を動かして試してみて、プログラムを練り直します。最初は、私達が未熟ということもあり、子ども達が全然言うことを聞いてくれないことがありました。そのときは、他のメンバーや活動先の方に対応について尋ねたりしました。子ども目線で考えることを学んでそれを実践する場になっています。教室が終了した後は、振り返りを行います。一人ひとり「この子はこうだったよね」とメンバーで話し合います。

教室中は、学生スタッフが分担して動きます。この子を観るのは〇〇さん、今日のリーダーは〇〇さんなどと役割分担して動くことで、子ども達がきちんと言うことを聞いてくれるようになってきたと感じています。

主体的に取り組めたこと

活動中は、ちょっとした工夫をたくさん試しています。子ども達に、集まった時にすぐ座ってほしい場合、先に先生達が座り、体で表すようにしたり、声のトーンを変えることもしています。集中してほしいときは、「集中して」や「今から話すよ」という声をきつくしたり敬語を使わないようにしています。運動を一緒にやりたがらない子に対しては、学生スタッフがその子に付き添い、話を聞くようにしています。最近になってようやくそれが上手くなってきたと思っていますが、まだ慣れてはいません。

達成感・感想

子ども達が言うこと聞いてくれなく、困ることもありますが、笑顔で運動してくれることに嬉しさを感じます。これからも私達ができる限りのことを尽くして学んで、一緒に学びながら教室を続けていけたらよいと思っています。

また、教える側として声の出し方など小さな工夫が身に付いてきたと思います。他にも考える力など色々な力が付いてきたと思うので、ぜひこの活動をやってみたいと思う人がいれば挑戦してほしいです。将来、教師をめざす人はこの活動に取り組んだほうがよいと思います。

今後、頑張りたいこと

もっと多くの経験を積んで、教えるということを学んでいきたいです。今後も毎回の活動で色々な疑問を持つように心がけたり、課題を自分で見つけたりして、分からないことは周りの先生に聞き、調べ、解決して一つひとつを身に付けたいです。第一に子ども達にしっかり学んでほしいので、自分達が前もってたくさんの知識を身に付けておきたいと考えます。

質疑応答

Q 実際にどんなことを行ったのか具体的に教えてください。

A 縄跳び系がみんな好きなので、ダブルタッチや二重跳を行いました。ペアになって新聞紙でボールを当てる運動を行いたかったのですが、施設に新聞紙が無かったので他にボールを使った運動を行いました。硬さが異なるボールを使った運動などを繰り返し行いました。

Q 対象の子ども達の年齢や男女比について教えてください。

A 参加者は、小学2、3年生9人で、女子3人男子6人です。3年生は指導が難しい時期ですが、先生が複数人いるので一人ひとりについて対応しています。

Q 出来ることがそれぞれ違うと思うのですが、この子はできてこの子はまだできないというときは、どのように対応しましたか。

A 跳び箱を行った際、8段を跳べる子、跳べない子がいました。跳べる子からすると6段だと物足りなくなり、跳べない子からすると苦痛を感じるかもしれません。そのため、跳び箱が2つあったので、8段を跳べる子、跳べない子に分けて指導しました。

塩尻 圭祐さん

学科・学年　健康スポーツ科学科　1年

企画種別　教員企画

企　画　名　こども園行事の看板製作

この活動に取り組むきっかけ・参加理由

この活動は、自分の得意とするイラストを考えるという内容であり、得意分野を生かせると思ったため応募しました。そして、この活動では自分の今足りていない力、主体性と行動力、発言力を身に付けられると思いました。活動の内容は、保育園、幼稚園の運動会や生活発表会など様々な行事の時に飾られる看板を製作するというものです。私が製作した看板は生活発表会のものです。

活動の内容・主体的に取り組めたこと

製作にあたり心掛けたことは、子どもが喜んで看板の前で写真を撮ってもらえる素敵な看板を作ることです。主な活動は、デザインを考えることとそのデザインに必要なものをカッターやハサミなどで切って、ノリや両面テープで貼り合わせる作業です。この活動で主体的に取り組むことができたことは、主に自分の得意分野を生かした看板のデザインを考えて、色々な人と話し合いをして意見を取り入れながら製作をすることができたことです。

身に付いた力

色々と自分からアイデアを出して取り組んだので、その点で主体性が付いたと感じます。また、いかに効率よく取り組むことができるかを考えて製作したので、その点で行動力がついたと感じます。最後に、アイデアをいくつか出しみんなと話し合いをして作業を進めていったことで発言力が身に付いたと感じています。

活動全体の達成感・感想・今後、頑張りたいこと

子ども達が看板の前で笑顔で写真を撮ってくれることを想像すると、とても達成感を味わうことができました。私はコミュニケーション力をもう少し身に付けたいと思っているので、今後は、さらにコミュニケーションが取れるような活動に積極的に取り組んでいきたいです。

質疑応答

Q デザインを考えるうえでどのようなことに気をつけましたか。

A 動物などかわいいキャラクターを使うと子ども達が映えなく主体にならないとのことでしたので、このようなキャラクターを使わないデザインを考える必要がありました。そのため、看板は垂れ幕のような形にし、スポットライトが当たってるように後ろの背景を黄色にして、生活発表会を目立たせるデザインとしました。また、幕の揺れを表現するため、用紙に凹凸をつけて立体感を持たせました。このようにして、子ども達が見てわかりやすく、喜んでもらえるような素敵な絵を作りました。

Q 作業中はどんなことに気をつけましたか。

A 作業するのに安全第一はもちろんですが、絵や文字をかわいく見せるために、角を作らず丸くして柔らかさを意識しました。

杉本 鷹弘さん

学科・学年　健康スポーツ科学科　1年

企画種別　自己企画

企　画　名　スポーツ指導（浜松聖星高等学校男子サッカー部）

この活動に取り組むきっかけ・参加理由

母校である浜松聖星高等学校サッカー部のコーチとして活動をしました。この活動に取り組んだ理由は、監督の立場で物事を考えてみるとどのような発見があるのかに興味があったためです。また、選手の立場からは見えないような監督のいつもの行動に興味もあり、見たいと思ったので取り組もうと思いました。その中で、その選手と監督での立場が違う中でのコミュニケーション力を高めたいと思っていました。

活動の内容

概ね監督のサポートをしました。具体的には、ボール出しや練習で人数の足りないところに入ったり、監督が守備を見ている時は、自分が攻撃の練習を考えたり、 雨の日でグラウンドが使えない時は、監督が走りを見て、自分が筋トレのメニューを考え教えたりしました。

主体的に取り組めたこと

コーチとして選手にコーチングをすることです。足が速いやテクニックがあるなど選手には個々の長所があります。それを消さないようにコーチングをすることを意識して取り組みました。

活動全体の達成感・感想・今後、頑張りたいこと

監督の裏側が少し見えたのですが、監督が選手のために行っていることは、いつもは選手の立場からは見えないものでした。監督は裏で選手のために色々なことを行ってくれており、感謝しないといけないと実感しました。

将来、サッカーの試合に関係する仕事に就きたいと思ってるので、今後は、サッカーの試合を運営する活動に参加したいと思っています。

質疑応答

Q 実際にコーチングをしてみて、難しかったことは何ですか。

A 選手の長所を消さないということを考えていたのですが、自分のプレースタイルと異なる選手には、自分がやっていたことがあまり通用しないので、一からトラップの仕方やボールを受ける位置などを考えることがちょっと難しいと感じました。

Q 選手との距離感はどのようでしたか。

A 去年まで2、3年生とは一緒に部活をしていたので距離は近くほぼ友達のような感覚でした。一方で、1年生は初対面でした。2、3年生ばかりと話していてはダメだと思い、1年生とも話そうと思ったのですが、2、3年生とは違うので少し苦労しました。

Q コーチにはどのような力が必要だと思いましたか。

A 慕われる力だと思います。コーチが何を言っても選手がそれを聞かなかったり、 信じなかったりすると全く意味がありません。「この人が言うことは合っているんだ」と思われるような力が必要だと思いました。監督よりはコーチの方が選手との距離感が近いと思うので、監督には言えないことをコーチに言ってほしいとの思いがあります。監督とは異なる信頼感がコーチには必要ではないかと思いました。

前田 和慶 さん
松尾 迅 さん

学科・学年　健康スポーツ科学科　1年

企画種別　自己企画

企　画　名　子どもの居場所スタッフ活動
（安城市民交流センター）

この活動に取り組むきっかけ・参加理由

子どもと関わって遊ぶことが好きなため活動しました。また、卒業後、教師になり子どもと触れ合う場に身を置いたときに、生かせることがこの活動で得られるのではないかと思いました。

活動の内容

この活動は、夏休みの間の6日間程行われました。家でひとりになる子どもを主な対象とし、子どもがひとりで時間を過ごすことを防ぎ、宿題を一緒にしたり遊んだりすることを目的としています。私達は主に「なんでもオリンピック」という企画に関わりました。室内でボッチャ、立幅跳、腕相撲、輪投げをしました。企画に向けて、一から何をしたらよいかを考えたり、 道具を作ったりしました。

主体的に取り組めたこと

安全面を踏まえ、遊びを考えることを頑張りました。例えば、輪投げであれば、他の子どもに投げた輪が当たってしまうと危ないため、人が密集しない場所で行うなどを考えました。

活動全体の達成感・感想・今後、頑張りたいこと

普段なかなか子どもと触れ合う機会が無いので、 上手に接することができるか不安でした。子どもと同じ目線に立ってみたり、上手にできない子をどう楽しませようかなど、子どもの気分の上げ方に工夫したりすることに苦労しました。他にも、子どもはすぐに感情が変わることがあるので、気を配りながら、声をかけたり、遊んだりすることが、自分の力になったと思います。

今後は、中学校の部活動指導に参加していきたいです。中学生は思春期のため小学生と異なる接し方をしなければ、イライラさせてしまったり、嫌な思いをさせてしまう可能性があったりすると考えられるので、思春期の子に対する接し方を学び、 将来、中学校の教員になったときに生かしたいと思います。

質疑応答

Q 子どもと関わる時に難しかったことはありますか。

A 例えば、腕相撲をした際、小学生相手に本気で対戦することはできなく、わざと負けるようにすると、そのことが見抜かれてしまうことがありました。やはり、小学生でもそういうことが分かるのだと思い、演技力も必要だと考えました。

米本 匠吾さん

学科・学年　体育科学科　1年

企画種別　教員企画

企　画　名　こども園行事の看板製作

この活動に取り組むきっかけ・参加理由

初めての人間力総合演習ということで、 まずはやってみる力が必要だと思っており、その時に、こども園の看板製作という面白そうな活動を見つけたためこの活動に取り組みました。

活動の内容

大学から10分程歩いたところに、活動先のこども園があります。そこの運動会や生活発表会といういわゆる行事の看板を作る活動です。園の先生から、この園に通っている子の保護者は共働きが多く、運動会や生活発表会などの行事は、子どもの成長を感じられる貴重な機会だという話を頂きました。それを聞いて、思い出に残るため「みすぼらしいものは作れない」、「ちゃんとしたものを作らないと」という気持ちになりこの活動に挑みました。

主体的に取り組めたこと

アイデアを考えながら製作できたことです。この活動は、こども健康・教育学科の3年生の先輩2人と体育科学科、健康スポーツ科学科の1年生2人で取り組みました。こども健康・教育学科ではない学科の学生で、アイデアを出してみようということになりました。どうすればよい感じに看板が作れるか、どんなマークを使えば今回の看板としてふさわしいものになるかなどを考えて、先輩や先生と一緒に製作しました。

活動全体の達成感・感想

先輩や先生の協力がありながらも自分達が考えたアイデアが実際に形なったことに感動しました。また、こども園の裏側のようなものを見た感じがし、普通に生活しているだけでは体験することがなかったことができ嬉しかったです。また、こういった看板を作ることは、結構、手間暇がかかると知りました。 周りの先生や大人の方の協力があり、自分達もここまで大きくなったと思うと、これから自分達もそういう立場になるにあたって感謝しながら生きていきたいと思いました。

今後、頑張りたいこと

今回は、どちらかというと普段自分が関わらないようなことについて活動を行ったので、次は自己企画を立ててみたいと思っています。私は、スポーツ系の企業に就職したいと考えているので、母校の中学校の部活動での活動など、自分に関係があることに取り組んでいきたいと思っています。

質疑応答

Q 一番苦労したことは何ですか。

A 垂れ幕の部分について、当初は、平面で考えていましたが、先生から立体的にした方が見栄えがよくなるとのアドバイスを頂きました。そこで、どのようにすればよい感じに立体感が出せるかということを苦労して考えました。最終的には、ちょうどよい感じに丸みを帯びさせて作ることができました。

Q 普段できないことができたとありましたが、どのようなことに対してそう思ったのですか。

A 普段の生活では、こども園の行事の看板を作る経験は多分無いと思います。今回の活動をきっかけに、園の先生が普段行っている看板作りを体験できすごく楽しく、面白かったです。

Q 一番こだわったところはどこですか。

A 生活発表会は小学生でいう学芸会みたいな行事なので、華やかな雰囲気を想像し、豪華感を出してみたことです。

Q アイデアを出す際や看板を製作する際に大事にしていたことは何ですか。

A この看板は、子どもが写真を撮る時に使うので、しっかりしたものを作らないといけないという気持ちが大きくありました。音符のマークなど、どのようなマークを使うかということは結構考えました。

Q 中学の部活動に関わりたいとのことでしたが、競技など具体的に教えてほしいです。

A 中学・高校時代は野球部に所属していました。野球は顧問が1人や2人の割に仕事が意外と多くあるので、自分が入れたらよいと考えています。

北川 絢音さん

学科・学年　栄養科学科　1年

企画種別　自己企画

企　画　名　母校・刈谷東高校折り紙部で行う『折り紙ワークショップ』『折り紙部展示会スタッフ』

この活動に取り組むきっかけ・参加理由

私は、母校の刈谷東高校折り紙部で行う「折り紙ワークショップ」と「折り紙部展示会のサポートスタッフ」を自己企画として活動しました。在学中は副部長を務めていた折り紙部に卒業生という立場で関わり、成長の糧に何か出来ないかと考えたことがきっかけです。相手に分かりやすく折り方を伝え、教える国語力や指導力、また、展示会は一般の方を対象にするので、知らない人とも話し、説明するコミュニケーション力が鍛えられると思い企画をしました。

活動の内容

折り紙部と聞いて、初めて聞いたという人、多いのではないでしょうか。珍しすぎて私の母校にはメディアの取材が来るほどでした。折り紙部は、その名の通り折り紙を折るのですが、主な種類は2種類あります。1つは1枚の折り紙から折る「1枚折」。福山ローズという立体の薔薇は花びらが8枚で出来ていますが、ハサミなどで切れ目を入れずに、そのまま1枚の折り紙で折られています。のりも使っていません。そして、このような折り紙を1つのパーツとして、何万という数を折り、集めて作る立体作品の2パターンに分かれます。多いものでは５万枚以上の折り紙が組み合わされています。折り紙を切る、折る、貼る、の3つの工程からなり、自分の出来ることを精一杯取り組もうと適材適所の精神を大事にしている部活です。

ワークショップでは、「ドラゴン」という作品に携わりました。1枚で折るものを在校生、卒業生を対象にワークショップをしました。子どもでも折ることのできるレベルであり、絶妙な難易度であることに加え、何よりとてもかっこよいためドラゴンを教えようと決めました。展示会は、文化祭の一環の発表の場として一般公開するものです。この機会に向けて部員達は1年間かけて複数の作品を同時進行して作っていきます。私はこの作品の説明のサポートスタッフとして関わりました。

主体的に取り組めたこと

折り方を伝える工夫をしたことです。難しすぎない難易度と言いましたが、少々難しい部分、複雑な部分はあります。目の前で説明しながら折っていても伝わりにくく「え、どうやって折ってたの」と言われることがありました。何回も「こうやって折るんだよ」と繰り返しみせるとともに、相手の紙に折り筋をつけてあげることで折り場所を伝えたり、ペンで線を書いて折り場所を伝えたりすることで工夫して教えることに成功しました。伝え方についてその場で工夫して取り組めたことはよかったです。

展示会では、臨機応変に取り組むことができました。作品に説明は付いているのですが、興味を持って質問をしてくれるお客様が多くいました。本当であれば、その場で折り方を見せて教えてあげたいのですが、感染症対策の関係がありそれができませんでした。代わりに折り方が見られるYouTubeを伝え対応しました。また、入場者プレゼントとして折り紙を配ったので、その中から質問を受けた折り紙を取り出し、一度開いて折り筋を見せて、そのままプレゼントすることで対応しました。作品の説明も堂々と行えたと思います。

私が担当した作品はもちろん、上級生の作品はある程度知っていたので様々な質問に答えられました。ここが今までの知識を存分に発揮出来た部分です。今の私のコミュニケーション力を存分に発揮しつつ、さらに積み重ねることができた場面でした。

活動全体の達成感・感想

ずっと関わりたいと思っていた折り紙部とまたこうして関わることができて懐かしい思いのもと自分も楽しみながら活動に取り組む事ができました。折り紙を折ることに対して純粋に折り紙を楽しんで折ることが一番だと思います。私も教えた方々も楽しんでいただけたことがよかったと思います。それと同時に、感覚的な部分を言語化することがとても難しかったです。山折り、谷折りなどはよく聞くとは思いますが、被せ折り、中割り折りなどなかなか聞き慣れない折り方もあります。難しい言葉を使ってしまうと、伝わらないし、名付けられていない折り方もあります。折り位置が感覚的なものもあり、どうしても伝えづらかったところです。自分が覚えた時の記憶は数年前なので、どう習ったか、どう折れるようになったか思い出すこともすごく大変でした。思っていることを言語化して伝えることは難しかったです。しかし、大変な中でも完成できた、やっと折れたという喜びの姿を見れたのは教えた側の特権だと思います。展示会でも驚きや労い、称賛の言葉を多くいただきました。このような声を生で聞けるのは在校生やスタッフの特権だと思いとても嬉しく思います。

今後、頑張りたいこと

今後は、その感覚的な部分、自分の思っていることを言語化し人に伝える力が付くように国語力を身に付けたいと思います。何より人と関わって話して経験値を積むことが大切だと思うので、人に教える活動に関わってみたいと考えます。また作品を自分でもまた作ってみたいと思うので、個人で作品を作ってみたいとも考えます。

質疑応答

Q なぜ、自己企画で母校での活動に決めたのですか。

A 自己企画の説明を聞いた時、母校でのスポーツ指導が例に出ていました。指導が企画になると知り、折り紙はどうだろうと思い、顧問の先生に相談をしに行ったことがきっかけです。ただ、元々この人間力総合演習として取り組む以前に、高校を卒業してもまた折り紙部に関わりたいとの思いをずっと持っていたので、よいタイミングだったということもあります。

加藤 茜　さん

学科・学年　こども健康・教育学科　1年

企画種別　教員企画

企　画　名　北山子どもチャレンジ大会

この活動に取り組むきっかけ・参加理由

私は「北山子どもチャレンジ大会」という北山公民館で行われる、1年生から6年生までの子どもを対象にしたゲームを通して楽しむ大会に参加しました。私は将来、小学校教諭や保育士、幼稚園教諭などの子どもに関わる職に就きたいと考えています。ただ、日常で子どもと関わる機会があまりないため、この活動を通じて子どもと関わることでコミュニケーション力や判断力を付けるとともに、今後の実習などのために実践力を付けたいと考え、この活動に参加しました。

活動の内容

1年生から6年生までの学年が違う6人が1チームになり、けん玉などのゲームを行います。その異学年交流を通じて仲良くなることを目的としています。私達は、子ども達が楽しく遊べるように事前に準備をしたり、当日はゲームの運営や子ども同士のやり取りをサポートすることに努めました。

主体的に取り組めたこと

私は白刃取りゲームの運営を担当しました。ルール説明の際、口頭だけで説明しても分かりにくいと思ったので、実際に子ども達の前でやって見せ、できるかどうか声をかけたり、工夫しました。スムーズにゲームを進められたと思います。

活動全体の達成感・感想

白刃取りゲームは待ち時間が長く、子どもは少し退屈そうにしていました。ですが「白刃取り、どれだけできた？」などの声をかけて子ども達とコミュニケーションをとったり、背が低く、他の人のゲームが見れない子どもには見やすい場所を提案したり、その場に合わせた対応力が身に付けられたと思います。

今後、頑張りたいこと

今後の活動はまだはっきり決まっていないですが、保護者も参加するようなイベントの活動に参加したいと考えています。将来、小学校の教員や保育士などの職業に就いたときに関わるのは子どもだけではないと思います。子どもと関わるうえでは、必ず保護者の人とのコミュニケーシ

ョンも必要となってくると思うので、保護者とも連携できるような機会を学生のうちに経験しておきたいと考えています。

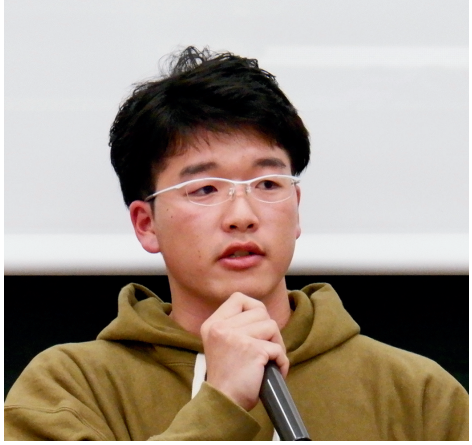
質疑応答

Q 話す時に工夫したことはありますか。

A 説明を聞いて本当に「やりたい」と思ってもらえるように、白刃取りができなかった時でも「あ、できなかった！」など声を出し、楽しんでいる様子を見せるようにしました。

Q 子ども同士が仲良くなるために工夫したことは何ですか。

A 子ども同士の自己紹介の際、緊張のため声が小さく何を言ってるのか分からない子がいました。その子の耳元で「もう1回話してみて」と伝え、大きな声でみんなにもその子の言葉が伝わるように頑張りました。



鈴木愛一郎さん

学科・学年　健康スポーツ科学科　2年

企画種別　人間力開発センター企画

企　画　名　大府東浦花火大会 企画スタッフ

この活動に取り組むきっかけ・参加理由

私はこの活動に、学生副リーダーとして参加しました。参加した理由は4つあります。1つめは自分が興味を持てる活動だったということです。興味の有無はあまり言ってはいけないことだと思うのですが、興味を持たなければ主体的に行動することはできず、人間力を伸ばす活動として意味が無くなってしまうのではないかと考えています。2つめは、この活動は大学外部の人と関わる活動だったからです。大学内部の人との活動では、やはり学生ということもあり、甘えが出てしまうと考えていました。そのため、地域の方々と関われる活動ならば、自分達がしっかりと責任ある行動ができるのではないかと考えました。3つめは、グループ活動だったからです。大学では高校までと比べ、グループでの活動がかなり減ったと感じていました。自分の考えだけではなく、他人の意見を聞いて、その意見を元に改めて考えて、皆で話し合って活動していくことが、コミュニケーション力を伸ばすことにつながるのではないかと私は考えていました。最後に、言いにくい理由ですが、活動応募時、私は1年生の頃あまり人間力総合演習の活動をしてこなかったため、活動時間数を稼ぐことができる企画との思いがあり応募しました。

活動の内容

大府東浦花火大会は、子ども達に夢を与えること、地域の発展と活力をつけることなどを目的に、地域の企業や市民が協力して開催している花火大会です。私達は、至学館大学の活動として、花火大会の運営全般と子ども向けの企画ブースの出店に参加しました。花火大会の運営全般の活動では、事前の打合せ、花火大会当日の運営、翌日の花火大会会場の清掃活動等を行い、子ども向けの企画ブース出店では「ストラックアウト」と「おもちゃ釣り」の企画・準備・運営を行いました。そして私は、この活動に副リーダーとして参加しました。私が副リーダーになった経緯は、リーダーが決まった時に、人間力開発センターの佐藤さんに、先輩とともに副リーダーをやってもらいたいと頼まれたからです。はじめは、リーダーのサポート役として副リーダーをやってほしいとのことで、あまり前向きではなかったのですが、意見を出すぐらいのつもりで引き受けました。しかし、気がついた時には、ガッツリと副リーダーとして活動に関わることになっていました。そんな私の副リーダーの仕事は、青年会議所の方と連絡を取り、学生との円滑な連携をはかることでした。決定事項や学生の方で出た意見などを青年会議所の方に伝えて、協議しました。加えて、追加の学生スタッフの募集を行うGoogleフォームの作成などの事務作業、リーダー会議や全体会議の司会、当日の指示出しなどを行いました。

主体的に取り組めたこと

一番主体的に取り組めたことは、あまり前向きではなかった副リーダーの仕事です。特に、会議や当日の青年会議所の方との連携を主体的に取り組めました。会議では、自分の担当エリアでどのようなことが起こるかを想定してどのように対応するかの確認を青年会議所の方とともに行いました。この活動は、参加する学生の人数が、初めと終わりでかなり変わってきたので、どのように活動するか、青年会議所の方とかなり協議しました。そして、準備や当日は、学生と青年会議所の方との連携や学生のまとめ役を担いました。当日は、かなり公園内が広いことに加え、学生スタッフの人数が合計で70名近くいたため、まとめることが大変でした。しかし、リーダー、4年生の副リーダー、実行委員や青年会議所の方々と円滑に連携し活動することができました。活動を始めた頃は、前に立って活動するつもりがなかったうえ、多くのトラブルも起き、自分がなぜここまでやらなければならないのかという思いがありました。しかし、熱い思いを持った仲間がサポートしてくれたことで、なんとか活動を続けることができました。そして、会議を重ねていく中で、本当にこの活動を成功させたいという思いが生まれ、その思いがだんだんと強くなっていき、忙しさや人間力総合演習の活動時間数などどうでもよいという気持ちになり、本気で活動に取り組むことができました。

活動全体の達成感・感想

花火を見に来てくれた人や、ブースに来てくれた子ども達の笑顔を見ることができ、とても嬉しかったです。花火大会当日まで、多くのトラブルやタイトな日程により、心身ともにかなり疲弊していました。しかし、子ども向けの企画ブースに行った時、子ども達がはしゃいで笑顔になっている姿を見ることができ、本当に頑張ってよかったと心が救われる思いでした。また、花火が上がった時も子ども達の笑顔を見た瞬間と同じ思いになり、とても嬉しかった瞬間の1つです。花火が打ち上がったことが、ここまでやってきたという1つの区切りめという感覚があり、花火の美しさにものすごく感動しました。すべて終わった後は、とても大変でしたし、もっとこうすればよかったと後悔することもありましたが、この企画の副リーダーをやってよかったと感じられました。

今後どのような活動をして、どんな力を身に付けたいか

今後は、学生が企画を行う活動に参加したいと考えています。やはり、この今回の企画に参加して得られたものはかなり多かったです。その中でも、コミュニケーション力や主体性に関しては、特に成長することができたと考えます。私はそこまで人前で話すことが得意ではないです。しかし、この活動では人前で話す機会がかなり多かったため、成長できたのではないかと考えています。そして、実行委員や青年会議所の方々ともつながりができ、来年度の花火大会にも参加したいと考えています。次回参加した際は、今回の問題点を改善し、計画通り進められるように頑張っていきたいと考えています。

質疑応答

Q 一番苦労したことは何ですか。

A 準備への熱意の違いです。この活動は、企画スタッフ一人ひとりがかなり意識して動かないと成り立たない企画でした。はじめは私も熱意が足りなかった点はありましたが、当日に近づくにつれて熱意が大きくなっていきました。熱意がどんどん大きくなるスタッフと熱意がないスタッフがおり、熱意の差からくる準備時の行動の違いに苦労しました。この点については、副リーダーとして、よりうまく立ち回らなければならなかったと考えています。

萩原 朱里さん

学科・学年　健康スポーツ科学科　2年

企画種別　人間力開発センター企画

企　画　名　大府夏まつり活動 企画スタッフ

この活動に取り組むきっかけ・参加理由

私がこの企画に参加した理由は主に2つあります。1つめは、やればできるという自信をつけたかったからです。過去に体育祭実行委員長や学級委員等、リーダー的仕事をいくつか務めましたが、どれも先生や友達からの声かけで行うことばかりで、その場のノリ的な勢いでやってしまい、責任逃れをしてしまったり、達成感を感じることができても、どこかやらされている感が残っていました。周りからは「よく頑張った」、「立候補してくれてありがとう」と声をかけてもらいましたが、私としては、完全燃焼できずに中途半端に終わっていました。そのため、自分の行動、発言に自信が持てずに不安になってしまい、指示を出すときにためらいがあったり、思っていることが発言できなかったりしました。そんな自分を変えたいとの思いと自信を持って発言、行動できるようになりたいとの思いがありました。2つめは、コミュニケーション力を身に付けたかったからです。私は初めて会う人に自分の思っていることや自分自身のことを伝えることがうまくできないので、 絶対に話さないといけない時以外は初めて会う人と関わることを避けてきました。また、大人数で集まることがあっても、いつも隅っこで友達と話しているだけで、自分から人の輪に入っていくことはしてきませんでした。こうした自分を変えたいとの思いから、企画段階から参加する企画スタッフに立候補しました。

活動の内容

私達の活動は、活動先から任された小・中学生をターゲットとした千本引きブースのレイアウトや人員の配置等を考え、運営することです。全てのことを学生が中心になって考えました。6月から8月のお祭り当日までの約2カ月間、週に1回2、3時間程度、大府商工会議所青年部の方との打合せを行いました。他には、企画スタッフのみで集まれる時間に集まり、平日でも学生スタッフ間で話し合いを重ねました。当日スタッフの学生と行う事前オリエンテーションの資料の作成や会の進行、過去の写真を見ながら会場のレイアウトや人員の配置等を考えるとともに来場者の予想を立て、そこから売り上げや景品の単価を考えました。また、当日スタッフとして参加してくれる学生約20名が、 少しでも多くの学生と関わりを持ち、お祭り当日にただ仕事をこなすだけにならないよう、当日までに作業を手伝ってもらったり、ピザパーティーを行ったりして親睦を深めました。

主体的に取り組めたこと

打合せでの発言、資料等の作成、青年部の方、人間力開発センターのスタッフの方との連携など、学生の私でもできることには全て主体的に取り組みました。授業や定期試験、部活動、アルバイトなど、様々なことがありましたが、頼まれたことは最優先で行い、プラスアルファでこの

方がもっとよくなるのではないかと考え、 提案や行動をしました。自分が頑張った分だけ、たくさんの方から「ありがとう」、「頼りになる」との声をかけていただけて、毎回嬉しい気持ちになるだけでなく、次も頑張ろう、もっと頑張ろうと思えて、新しくチャレンジしようとの思いが生まれてきました。その声かけが大きな影響を与えたと思います。

活動全体の達成感・感想

今回の活動を通して、とりあえず何事も挑戦することが大切だと感じました。そして、当たり前かもしれませんが、 挑戦したことに満足するのではなく、その活動が終了するまで、一生懸命自分の仕事に責任を持って取り組むこともあらためて大事だと感じました。 最初は、自分に自信が持てるようになりたいやコミュニケーション力等を身に付けたいと思い参加していましたが、活動していてそれは後付けであり、本当の目的ではなくなっていました。活動していく中で、イベントを成功させたい、来てくれる人に楽しんでもらいたいという気持ちの方が強くなり、その気持ちが活動源になったことで、結果的に活動を通して自分の成し遂げたことが自信につながったり、コミュニケーション力や行動力といった「〇〇力」につながったと思います。

私一人で何でもできるようになったわけではありません。私一人ではまだまだできないことだらけです。ですが、一人で何でも完璧にできる必要はないのかなと思いました。今回、企画メンバーとして打ち合わせでたくさん発言したり、もっとよくなるように提案したりできたのは、仲間の存在があったからです。できなくても困った時に助けてくれたり、失敗してもカバーしてくれたり、私が発言することが苦手なことを理解し、私が発言したことを汲み取ってくれたり、話し終わるまでちゃんと聞いてくれて、発言しやすい環境を作ってくれたりしました。そういった一人ではない、一人で頑張りすぎなくてもいいという仲間がいる安心感があったからこそ、自信を持って発言や行動ができたと思います。何でも一人でやろうとしてしまう私には、仲間に頼ってもいい、頼るために仲間がいるというのは大きな気づきでした。そして、全力で活動したからこそ、活動終了後の達成感はすごく、この活動に自分から立候補してよかったと心から思いました。

今後どのような活動をして、どんな力を身に付けたいか

私も最初は多くの人が思っていそうなように、楽そうなボランティアに参加して 60時間終わらせればいいやと思っていました。しかし、この活動を通して、それではもったいないと感じるようになりました。 時間はみんなに平等にあり、挑戦する機会は様々な方が用意してくれています。もちろん時間の使い方は人それぞれです。しかし、至学館生だからできることや、今だからできることがたくさんあります。あと一歩が踏み出せない、私にはできない、自分には関係ないと思っている人が多くいると思います。ですが、なんとかなる精神で一歩踏み出してみませんか。どんな企画もあなた一人ではありません。学年、学科をこえてたくさんの学生、人間力開発センタースタッフの方、そして地域の方とたくさんの人が協力し支援してくれます。

突然ですが、先ほど発表があった花火大会の活動に私は来年立候補しようと考えています。過去の私のように楽に終わらせればいいやと考えている人、今の自分を変えたいと思っている人、こんな私と一緒に活動してみたいよって人がいたら、ぜひ参加してみてください。今回の活動で私が感じたことが少しでもたくさんの人に伝わり、思いが届けば嬉しいです。

質疑応答

Q 花火大会では、トラブルが色々起きたのですが、夏まつりは何かトラブルは発生しましたか。

A トラブルは特に無かったです。地域の方、大府商工会議所青年部の方のサポートが大きかったです。青年部の方がすごく積極的に関わってくれ、自分達が気づいてないところにまで気にかけてくれて、自分達が困った時にもすぐに対応してくれました。学生間でも、色々な連絡を取り合っており、トラブル潰しはできていたと思います。

田邊 香　さん

学科・学年　健康スポーツ科学科　2年

企画種別　自己企画

企　画　名　スポーツ指導
（豊山中学校女子バスケットボール部）

この活動に取り組むきっかけ・参加理由

私は教員免許を取得するうえで、ただ知識を深めるだけでなく、実践的な指導力を身に付けることが非常に重要だと考えています。また、私は約10年間バスケットボールをしており、その経験を生かせるような活動をしたいと考えていました。そこで、この部活動指導をする企画に挑戦してみようと思いました。実際に部活動を指導することで、生徒と向き合い、たくさん学び、生徒の視点で新たな経験を積むことができると思いました。また、この活動を通して、社会力、自己形成力を付けたいと考えていました。社会力を身に付けるためには、積極的に他者とコミュニケーションを取り、異なる視点を理解することが大切であり、自己形成力は目標を設定して学び続けることが大切だと思います。このようなことから、この企画がとても適していると思い、この企画に取り組みました。

活動の内容

私は、バスケットボールを長年取り組んでいたので、バスケットボールを中学生に指導しました。期間は8月の1ヶ月の間、夏休みの部活動に参加しました。ただ指導するだけではなく、実際に練習に参加し、指導者としての立場から見るのではなく、生徒の立場になって指導を行ったりと、色々と工夫して練習に取り組みました。また、自分の伝えたいことを伝えるだけでなく、生徒一人ひとりの得意、不得意、性格を熟知したうえで指導を行いたかったため、顧問の先生に実際に練習試合のビデオを見せてもらい、生徒のプレースタイルや実際に生徒たちとコミュニケーションをとって性格を知り、この子は褒めた方が伸びるなど内面を見て指導するように心がけました。

コロナが流行っていたこともあり、運動不足が懸念されていましたが、そういったことも配慮して、無理な内容を押し付けるのではなく、ファンダメンタルを中心に1ヶ月間指導しました。また、突き指や怪我をした際に、大学1年生の頃に履修していた安全救急法の授業を思い出して、臨機応変に応急処置を行うことができました。

主体的に取り組めたこと

体を動かすことの楽しさをもっと知ってもらいたかったため、技術面の指導と同様に、声を出すことの楽しさを伝えていくことに力を入れました。チームスポーツは仲間との連携が必要不可欠です。そういった大事な場面で声を出せないと、大きく勝敗が変わってくると考えています。それだけでなく、声を出すことで大きくパフォーマンスが向上することが科学的にも証明されて

います。これは私の経験談ですが、声を出して練習に取り組んだ方が絶対に楽しいです。辛い練習も無言で取り組むのではなく、辛い練習の時こそ誰よりも声を出し、お互いに励まし合い、取り組むことで、辛い練習も楽しいものに変わってくると思っています。そうすることで、自然とチームの雰囲気もよくなり、周りから応援されるチームになります。 技術的な面を指導することも、もちろん大切なのですが、誰でも意識して取り組むことができる点を私は大切にしてほしいと思い、この1ヶ月間、声を出すことを重視して指導しました。

活動全体の達成感・感想

指導する一番初めにチームの目標を聞くことが本当に大切だと思いました。選手と指導者で目指していることが一致していないと、そのスポーツに対する熱量が変わってきてしまい、すれ違いが起きてしまいます。達成感は、声を出すことの大切さを生徒に知ってもらえたことです。声を出して取り組む生徒を見ると、声を出す前と比べて顔が明るくなり、全体的にとても良い雰囲気で練習に取り組めていました。また、「声を出すとこんなに楽しいのですね」と言ってくれ、とても嬉しい気持ちになったのは今でも忘れられません。

今後、頑張りたいこと

今後、ゼミ選択が行われますが、そこのゼミで行われることを自分の将来につなげて価値のあるものにしていきたいです。ゼミは少人数で行われるものなので、自主的、自発的に参加することが大切で、これからも積極性を忘れずに今回の活動で培った社会力、自己形成力をさらに磨いていきたいです。 もちろん、実践的な部分以上に専門的な知識を学ぶことも大切なので、そういった両立を、計画をしっかり立てて取り組んでいきたいです。

質疑応答

Q 生徒が楽しんで行える活動をしたとありましたが、具体的にはどのような活動をしましたか。

A パスやシュートの基礎が曖昧になっていたので、土台からしっかり教えました。例えば、ふわっとしたパスになっていたので、もっと肩の力とか足の力を使うともっとよくなるというのを教えると、すごく楽しそうに、「本当だ」と言っていました。見ていてすごく楽しそうだと感じました。

Q パスを教えるためには技能面で自分ができないと教えられないと思うのですが、どのように勉強しましたか。

A 高校時代の練習が少し特殊で、先生が教えるのではなく、先輩が後輩に教える形で基本的に練習が行われていました。そのため、技術だけでなく、指導もできるように知識的なことも、しっかり自分の頭に入っていたので、それが生きたと思っています。

Q 生徒それぞれのプレースタイルに沿った指導法とは具体的にどのように指導しましたか。

A この子はディフェンスが上手だからもっとこうしたところが伸びると思ったところを、練習中の小休憩の間に、実際に選手に教えたり、シュート練習の時、この子はもうちょっとこうしたほうがよいと思ったとところをすぐに選手に伝えたりし、一人ひとり、そのプレースタイルに合った指導法を考えて指導することを心がけました。

Q 顧問の先生と自分との間に、考え方の違いはなかったですか。

A 正直ありました。この子はこういう性格だからもっとこう教えた方がよいのではないかと思うことがありました。ただ、先生なりの考えがあると思うので、自分の考えを押し付けずに、その先生の考え方もしっかり尊重したうえで、自分はこう教えていきたいとの考えを持って取り組みました。

Q 部活動指導は、教員ではなく、地域団体などに任せる地域移行や指導員の導入が注目されていますが、それについてはどう思いますか。

A 私もその案に対してとても賛成しています。もっと大学生やスポーツを経験したことがある人が、積極的に協力して教えられる社会になれば、教員の負担も減ると思います。 私も今後さらにバスケットボールをたくさんの子達に教えていきたいと思います。

安形 一輝さん

学科・学年　体育科学科　2年

企画種別　人間力開発センター企画

企　画　名　FC刈谷ホームゲームサポート活動

この活動に取り組むきっかけ・参加理由

私が行った活動はFC刈谷ホームゲームサポート活動です。この企画に参加した理由は、1つめは、自分自身サッカーが大好きなため。2つめは、2022年の前期からこの活動に参加し、スタッフやサポーターなどすべての方々が優しくて素敵であったため。3つめは、様々なサポート活動からやりがいが感じられ、自分自身を成長させることができる活動だと考えたためです。したがって、今年もこの企画に参加しました。

活動の内容

この活動は、愛知県刈谷市のウェーブスタジアム刈谷で行われるFC刈谷の東海社会人リーグのホームゲームの運営に携わりながら、来場者が満足し、また来たいと思えるホームスタジアム作りを常にめざしていきます。また、FC刈谷が抱える集客に関する課題にどう取り組み、解決していくのかをスタッフや一般のボランティアの方々と共に考えます。次に、活動のスケジュールです。東海社会人リーグが始まる前に一度ミーティングを行い、担当の方から説明やクラブの想い、選手やスタッフの想いを聞きます。リーグ戦は5月から10月にかけて開催され、私達の活動は月に1、2回程で、ほぼ土曜日に行います。当日には一人ひとりに役割が与えられます。例えば、受付やグッズ販売、チケット確認や入場カウント、場内警備など様々な仕事があります。どの役割も責任を持って行います。至学館大学の学生以外に、一般のボランティアの方やベンチ外の選手、アカデミーの子ども達や地元の中学生とともに活動を行います。また、中には活動を手伝ってくれるサポーターやお客様もいます。皆さんとても親切で素晴らしい方々です。すべての活動が終わったら、最後ミーティングで活動の振り返りをし、来シーズンに向けての意見交換を行います。これですべての活動が終了です。

主体的に取り組めたこと

この活動で一番主体的に取り組んだことは、場内警備とお客様の対応です。私はほとんどこの役割を任されました。お客様の安全が第一ということを忘れずに行動しました。8月、試合中に突然大雨が降ってきて、雷も鳴りました。このようなことが起こるのは初めてだったので、お客様はとても慌てていました。お客様に何かあってはいけないので、スタッフ全員で協力しながらお客様を誘導しました。夏休み中の試合だったので、いつもより人が多かったのですが、なんとか全員を無事にスタジアムから出すことができました。その時の自分はいつもよりも積極的に動くことができ、達成感を感じることができました。

活動全体の達成感・感想

この活動を通して、たくさんの方と交流することができました。お客様の中には、初めて試合を観に来る人、他県から来る人、長年にわたりFC刈谷を応援している人など様々な方がいることを知りました。また、ゴール裏では小学生や中学生も混ざってサポーターと共に応援する姿を見ることができました。このようなことから、FC刈谷はたくさんの人達から愛され、応援されているチームだと実感することができました。また、個人としても以前より積極的に行動することができるようになり、コミュニケーション力が高まったと思いました。本当にこの活動はやりがいを感じ、今の自分を変えることができます。

人間力総合演習をまだ取り組んでいない人、サッカーあるいはスポーツに興味がある人にはぜひおすすめできる活動です。また、スポーツに興味がない人や全然サッカーを知らない人でも楽しむことができ、自分を変えることができる活動になっています。もし来年この活動が企画されたら申し込むことをおすすめします。

質疑応答

Q 選手の声で印象に残ってることは何ですか。

A 「本当にありがとう」と、とても言われました。また、「ボランティアの方々の協力があるからこそ選手は試合ができる」と言ってもらえ、とても嬉しく思いました。

織田 妃菜さん

学科・学年　栄養科学科　2年

企画種別　人間力開発センター企画

企　画　名　スマイルビーチプロジェクト

この活動に取り組むきっかけ・参加理由

私は、「スマイルビーチプロジェクト～誰もが自分らしくありのままでいられる～」という活動に7月から10月まで参加しました。元々、祖母の家が田原市にあることもあり、今回の活動の開催地は私にとって非常に縁のある場所でした。小さい頃から田原の海が大好きで、いつかこの地で、この場所で、そこの地のために活躍したいとの思いがあったため、今回はより深く参加できる実行委員として関わりました。この活動は、2022年も参加したのですが、その際に、自分一人のためではなく、人のために他人を思いやって、他人のために行動している身近な先輩の姿を見て、私もこの活動を通して、人のために行動でき、人から尊敬されるような人間になりたいと思い、取り組みました。

活動の内容

スマイルビーチプロジェクトは、海をフィールドとして知的・発達障がい児の安心できる居場所づくりと理解の推進、障がいの有無に関わらず差別や偏見がなく誰もが自分らしくありのままでいられる社会「ノーマライゼーションの地域づくり」をめざして活動しています。実行委員として私が行った活動の1つが説明会の資料作りです。当日学生スタッフを対象とした説明会を私達実行委員が担いました。教室の確保やそこで使用するパワーポイントやプリントの作成を行いました。2つめは、当日学生スタッフの募集です。応募期間を自分で決めて、応募を締め切り、そこからメールで申込者とやり取りをし、参加者名簿を作成しました。3つめは、主催者と大学への連絡です。参加者名簿の共有、今回の活動の詳細、バスの有無などを私が連絡係として行いました。4つめは、リモート会議です。主催者と当日の流れの確認、反省会、今後の予定の確認、アイデア出しなどを行いました。（活動の様子を投影）これが作業場の様子です。作る規模が大きいと持ち運ぶことが困難なので、休日に豊橋の図書館や田原市の事務所に行き、打合わせとともに作成しました。

次に色紙作りです。サーフィン教室の最後に子ども達に写真を貼ってプレゼントするために作成しました。毎回イラストのデザインを書いて、子ども達が喜んでくれるように工夫しました。

最後に当日の活動です。当日は、当日学生スタッフが到着する1時間前に実行委員は集合し、最終確認を行いました。そこから当日学生スタッフの受付、Tシャツの配付、開会の言葉などを行いました。常にワンテンポ先のことを考え、計画通りスムーズに進むように意識していました。また、子ども達と当日スタッフが上手くコミュニケーションが取れるように、自分から話しかけることを意識しました。活動終了後は、片付けをして主催団体と反省会を行いました。

主体的に取り組めたこと

少ない人数の中、一人ひとりに負担がかからないよう、必ず自分から進んで行動しました。また、主催団体の方々と最大限に協力できるよう、常に自分の仕事を探しながら周りの手伝いをするようにしました。また、周りの人にも目を向け、その人の、その時の最善の行動を指示し、動いてもらうよう私から働きかけることで、手が止まって仕事をしてない人がいないような工夫を心がけました。これは、人数が少ないからこそ私が発揮できた主体性だと感じています。元々リーダーシップに欠けている点が私の課題でしたが、この活動を通して、人を求める、動かすというリーダー的役割を身をもって感じることができました。そして当日、活動が円滑に進むように、大学と主催団体との連携を取ることを意識的に私は行っていました。準備の段階では、毎回その進捗状況を大学に伝え、大学からの連絡を主催団体に伝えるなど、大学と主催団体とのパイプ役に徹するよう努めていました。リーダー的役割を担いつつ、コミュニティ同士のかけ橋的な役割も経験することができました。その結果、当日の活動は円滑に進み、無事によい成果が得られました。

活動全体の達成感・感想

実行委員は、単発の活動とは違い、深く関わることができる反面、辛い場面もたくさんありました。しかし、イベントに参加してくれた子ども達から笑顔で楽しかった、またサーフィンをやりたいとの声を聞いた時に、今まで頑張ってきてよかったと心から感じました。この活動を通して得られた大きな達成感の1つです。また、一緒に活動していた先輩や学生からは「織田さんがたくさん周りに気を遣って、人一倍考えて動いてくれたから、楽しい活動になりました、素敵な時間をありがとうございました」と感謝されることもありました。他人に感謝されることの嬉しさや、自分から行動することの大切さを体感できました。先ほど挙げた私のリーダーシップ性や人に何かを発信するという点での課題に対しては、よいアプローチができたと思います。

今後どのような活動をして、どんな力を身に付けたいか

今回の活動を通して、私には「人に任せる力」が必要だと感じました。自分から行動する、人を動かす、人に状況を伝える力はこの活動を通じて養えたと感じています。しかし、私の活動量が多くなってしまいました。一緒に活動していたメンバーと協力することができれば、さらによい結果につながったのではないかと感じています。周りに負担が偏らないよう、自分から行動することは意識的に行っていましたが、その結果、私一人に負担がかかってしまったという点は反省です。今後、実習や社会生活など、集団やチームで活動することが増えてくると思います。その時に、自分から行動することはもちろんのこと、人に仕事を振り分け、周りの人達と協力する力も身に付けていきたいです。この活動は来年も実施されると思うので、海が好きな人やサーフィンをやってみたいという人はぜひ参加してみてください。

質疑応答

Q 具体的に何が大変でしたか。

A 常に主催者とコミュニケーションを取らないと仕事が来なかったり、自分から動かないと活動に参加することができないので、常に自分から「これどうなっていますか」、「あれどうなっていますか」「次に向けていつから動き出せばいいですか」など常に私が一番最初に聞いて、他のスタッフに伝えていました。

Q 田原の魅力を教えてください。

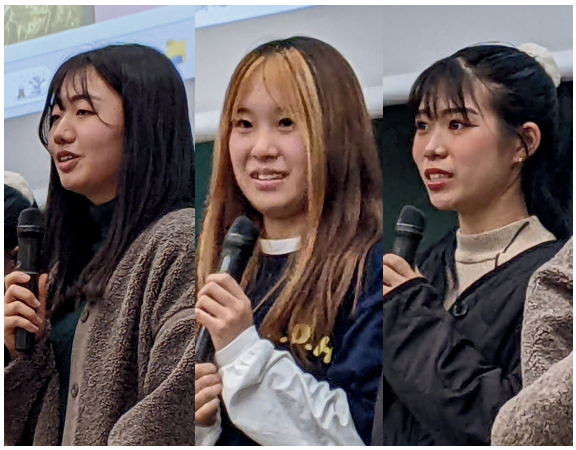
A まず、太平洋に面した大きな海があります。私はその晴れたキラキラした海が大好きで、月に1回足を運び海を眺めています。また、春だと菜の花、新年だと初日の出が綺麗なところです。海産物、海苔が有名です。畜産も有名で、渥美牛があります。

Q お客さんの対応で一番大変だったことはありますか。

A お客さんは基本的に障害のある子ども達なので、私達が伝えた指示が届かないときは大変でした。ただ、社会人のボランティアもいたので、なんとか協力して対応しました。

Q 何人くらいの子どもが参加しましたか。

A この活動は、1回につき7人程が定員です。最後の、サーフィンフェスティバルは、大人から小さい子まで来たので、大勢の来場者の方に参加して頂きました。



遠藤 由菜 さん
川畑 花音 さん
笹野 夢華 さん

学科・学年　こども健康・教育学科　2年

企画種別　自己企画

企　画　名　手芸クラブの講師等
（大府市共長児童センター）

この活動に取り組むきっかけ・参加理由

学校内の活動ではなく児童センターに行くことで、普段関わりのない人との関わりを増やすことができ、これにより、社会力やコミュニケーション力が高められるのではないかと思ったからです。また、将来、子どもと関わる仕事をめざすにあたり、子どもと関わることは、当事者意識、実践的行動力の観点で見ると、当事者力を高められるのではないかと思ったからです。

活動の内容

企画の内容は主に3つあって、1つめが手芸クラブの運営、2つめがセンター祭りのサポート、3つめが子ども会の企画サポートや運営です。手芸クラブは、クラブでやる内容を考え準備するところから当日終了まで全て私達が行っています。今年の作品は徐々に難しくなる、導入から発展という構成で行いました。子ども達の個性を生かした作品になるよう、名札では花びらの色をたくさん用意したり、ドーナツでは糸の色をたくさん用意したり、ランチョンマットでは様々な柄の正方形のはぎれを用意しました。また、早く終わった子への対応として、余ったものの活用を心がけています。例えば、名札作りで余った花びらの部分をつなぎ合わせて1つの花にしました。

次に、センター祭りのサポートについてです。センターに遊びに来る子ども達で、お祭りのボランティアを希望する子と私達でペアを組み、お祭り当日遊びに来るお客さんにボードゲームを教えたり、一緒に楽しんだりしました。

最後に、子ども会のサポート運営です。子ども会の提案を受けて、子ども達と一緒に作品を作ったり、サポートをしたりしました。先日、クリスマス企画でマジックスクリーンとクリスマスカルタの作成をして遊びました。他にも私達から企画を提案し、子ども会の方と相談し行ったものもあります。

主体的に取り組めたこと

私が一番主体的に取り組んだことは、企画の内容の準備とSDGsを取り入れた活動内容を考えたことです。私は活動をするうえで、子ども達の個性を大切にするということを心に決め、内容を決定してきました。 自分の作りたい色で作れるよう、たくさんのフェルトや糸を用意し、ランチョンマット作りの際は実習中の就寝前に準備をしたりと、子ども達が活動に入りやすいようたくさんの準備をしました。また、子ども達の意見を尊重し、その場で土台の色を変え、作り直したり、なかなかデザインが決まらないという子どもの意見を聞き、 積極的に話しかけたりし、一緒

に考えるようにしました。私達が提案するだけではなく、子どもがどんな作品にしたいか、何が好きなのかを質問し、一緒に考えることができたことがとてもよかったと思います。

SDGｓを取り入れた活動内容では、たくさん調べてこの形のもので何ができるのかというのを知るところから始めました。様々な作品を見て、やってみて、どれがいいのか探すのは本当に大変でした。しかし、余り物を使ってかわいい作品ができるととても達成感がありました。

全ての作品で、まずは自分が作品を作ってみると縫い具合が硬かったり、意外と難しかったりと気づくことがあります。毎回、難易度を確認しながら、友達にも相談し、様々なことを考えながら活動を進められたことがとてもよかったと思うと同時に達成感を感じました。

活動全体の達成感・感想

企画を考えたり、準備をしたりすることがすごく大変でしたがやりがいのあるものでした。小学4年生から6年生の子どもがいたため、どの年齢の子どもでも行える作業工程を考え、かつ、子ども達が「可愛くできた」、「楽しい」、「もっとやりたい」と喜んでもらえるような企画となるよう考えました。

また、必要なものを準備し、作業の流れを決めておくなど、子ども達が困らないように前もって準備を進めていくことができました。これは、私達がめざしている保育者や教員になった時に必ず役に立つことであり、企画内容の考案から取り組めたことはとても貴重な経験になりました。そして、子ども達と関わる中で、何をやろうか迷っている子がいたら「こうしたらどう？」と声をかけに行き、必要に応じて補助をするなど、楽しい雰囲気で子ども達に積極的に関わることができました。

今後どんな活動をして、どんな力を身に付けたいか

残り2回の活動は、料理教室を行います。2回のうち1回は子ども達と一緒にクッキーやホットケーキ、白玉作りをします。クリスマスが近いので、サンタさんやツリーをイメージしたパフェを作ろうと考えています。もう1回はシフォンケーキを焼いて、みんなで可愛くデコレーションする予定です。

私達が企画をするうえで特に大切にしていることは、子ども一人ひとりの感性や個性を引き出し、自由な発想を促すことです。子どもが自由で楽しく取り組むことで生まれる発想力や作品の仕上がりに私達も毎回驚かされています。

今後、この活動を通して、さらに知的視力を身に付けたいと考えます。 8人の子どもが同時に料理を進めていくため、事前に順序を決め、それを子どもに分かりやすく伝えてから子どもの状況を把握し、 必要な援助を見極めたいと考えます。

質疑応答

Q どのような子が参加しているのですか。

A 共長児童センターに遊びに来る子の中でクラブの募集があり、抽選で当たった子が参加しています。女の子が8人、4年生から6年生まで様々な学年の子がいました。

Q 活動で苦労したことはことなんですか。

A 手芸クラブの講師はこの3人だけではなく、複数名います。誰かしら行けるように調整していますが、活動内容に関する情報の共有が足りなかった場面がありました。そこが難しい点でした。

実習中の準備が一番辛かったです。施設に泊まり込みだったのですが、就寝前、実習の記録を書き終えてから就寝までの1、2時間を準備に充てていました。

私も準備が一番大変だと感じました。4年生の子は、まだ家庭科の授業を習ってなかったらしく、針の持ち方や縫い方も初めてでした。活動の1回目に知ったので、補助が難しい部分がありました。

黒地 陽翔 さん
大畑 貴寛 さん

学科・学年　健康スポーツ科学科　3年

企画種別　人間力開発センター企画

企　画　名　公民館まつりにおける「竹を使ったブース出展」

この活動に取り組むきっかけ・参加理由

私達は、公民館まつりでの竹のブース出展を行いました。この活動に取り組んだ理由は、 面白さを感じたこと、公民館まつりということで、地元ではない人達との交流ができそれが楽しみであったからです。

私は、単純に子どもがとても好きで、関われることが楽しいと思ったからです。

活動の内容

初めに、全くまっさらな状態で、竹を使ってどのようなブースを出展できるか考えました。2つのグループに分かれて、竹から作れるものをみんなで出し合いました。話し合いの結果、竹を使ったブースは、「竹ぽっくり」と言って、竹に紐を通して足を乗せて歩くものを作ることになりました。竹は、神田公民館の裏にある竹林に行って切り出しました。切り出した竹を大学に運び込み、メンバー全員で小さく切ってパーツを作りました。

まつり当日は、結構小さい子ども達がたくさん遊びに来てくれました。 竹ぽっくりにマーカーペンで絵を描いたり、シールを貼ったりなどオリジナルの竹ぽっくりを作り、その場で遊んでもらいました。子ども達に対し、しゃがんで距離が近い状態で「何書くの？」や「すごい絵が上手だね！」と褒めるなど声をかけて活動しました。約50セット、100個程の竹を用意したのですが、2日間ですべて子ども達に渡すことができ、切った甲斐が本当にあったと感じました。

主体的に取り組めたこと

自分達で一から考えて、竹を切る作業が最も主体的にできたと感じています。メンバー7人で取り組みましたが、最初は人見知りで、雰囲気にぎこちなさがありましたが、取り組んでいくうちに、気持ちがほぐれ、より主体性をもって活動ができました。

私は、子ども達と接することも楽しかったのですが、地域の方々やそのイベントの代表者の方々ともお話しができ、まだ大府の知らなかったことをたくさん知れる機会になったので、もっと地域の方々と接するような活動を今後もしていきたいと思いました。

活動全体の達成感・感想

この活動に参加した当初は、簡単に、適当なものを作る活動だとすごく安易に考えていたのですが、実際は、すべて一から考えて動く必要があり、準備期間で10時間程要し大変な部分もありました。しかし、終わってみればすごく内容の濃い活動だったと感じています。すごく楽しかったと言いますか、自分にとって、とても良い経験になったと感じています。

私は、切った竹が絶対余るだろうと思っていたのですが、全部子ども達に渡すことができ驚きました。ゲームが流行り、あまり外で遊ぶ子どもが少ないかと思っていたのですが、今回の活動を通じて、まだまだ外で遊ぶ子どもがたくさんいるのかなと感じました。

質疑応答

Q 地域の方と交流する際のコミュニケーションはどんな工夫をしましたか。

A 私はとにかく「ニコニコ」で行きました。第一印象が大事だと思ったので、明るく笑顔で行きました。とにかく、とりあえず自分から行動して、自ら話しかけるということを意識しました。

私はとても人見知りなので、自分から話しかけることは苦手です。聞くことは得意なので、黒地くんが話してる時にそっと隣にいて相手の話を聞くことを意識し工夫して行動しました。

谷 怜夏　さん

学科・学年　栄養科学科　3年

企画種別　自己企画

企　画　名　スポーツ鬼ごっこ交流大会2023
運営スタッフ

この活動に取り組むきっかけ・参加理由

友達からこの活動に誘われたことがきっかけです。また、この活動に参加することで、周りを見て、いち早く流れをつかんだり、自ら考えて行動する力やスタッフの方や選手の子達とのコミュニケーションをとることで、様々な方と1つのイベントを作り上げる力が身に付くのではないかと考えました。また、今まで、試合型のスポーツを経験したことがなく、試合に参加したり大会を間近で見たり運営の経験をしたりする機会が無かったので挑戦しようと思いました。

活動の内容

この活動は、大府市のあいち健康の森公園で開催されました。運営スタッフとして、主に会場の設営や開会式、閉会式の立会いと、試合の記録、試合進行の補助、会場の復旧を行いました。会場の設営は、本部や試合を観戦するための椅子やテーブルを運搬したり、設置したりしました。また、試合記録は、結果を選手、保護者、運営スタッフの方々が見やすいよう表に書いたり、公式サイトに結果を登録しました。試合進行の補助は、得点板を動かしたり、得点者の記録を行いました。会場復旧は、普段は公園の広場なので、一般の方が安全に公園として利用できるように復旧を行いました。

主体的に取り組めたこと

会場設営と試合の補助です。本部の人達は忙しいためか、会場設営が行き届いていない様子でした。そのため、自分達で動いて、考えて動くということが大事になってきました。また、体を動かす仕事でもあったので、自ら率先して備品を運んだり、次のことを考えたりして設営することができました。試合の補助は、試合が毎回同じ流れだったり、同じ結果になるわけではないので、毎試合をしっかりよく見て、観察して動くことができました。

活動全体の達成感・感想・今後の活動と身に付けたい力

1つのイベントを多くの人と協力してやり遂げることができ、挑戦してよかったと感じました。私自身、今までスポーツを本格的に行ったことが無かったので、自分が運営側として役に立てるかどうかすごく不安でした。しかし、分からないことを参加した友達と一緒に取り組んだり、聞いたりして、無事に終えることができ純粋に嬉しかったです。試合中、選手が作戦を考え、情報共有を行い、コミュニケーションを取り合う様子をみて、団結力や士気を高めたり、チームの能力を高めるためには、このように主体的に行動することが大切だと改めてその重要性を知ること

ができました。主体的に行動することは、どこへ行っても必要なことだと思うので、考えて行動できる活動を行って、判断力や行動力を身に付けたいです。
　人間力総合演習の活動を通じ、コミュニケーション力が自分の弱みだと毎回感じていました。同世代の友人だけではなく、高齢者や小さい子、外国の人とも交流を広げ、グローバルなコミュニケーション力をつけたいと考えています。

質疑応答

Q この活動に参加するにあたり、事前打合せはありましたか。

A 事前にzoomで行いました。ルールや得点の付け方など案内を受けました。

Q スポーツ鬼ごっこの雰囲気を教えてください。

A みんな笑顔でした。ただ、試合なので結構真剣に取り組んでいました。結果に喜び、残念がる姿もあり、子ども達の元気な姿が見られました。

片山 隼児 さん
高橋 真大 さん

学科・学年　こども健康・教育学科　3年

企画種別　教員企画

企　画　名　こども園行事の看板製作

この活動に取り組むきっかけ・参加理由

私達は現在、保育課程を学んでいるため保育に携わることをしたいと思い参加しました。看板製作では、アイデア等を出し合って、考え合いながら、それにより、自分達が成長したことを感じることができるという点で、自己形成力を身に付けたいと思いました。

活動の内容

園行事の際に正門に掲げる看板を製作しました。園行事の中でも、今回は運動会と発表会の行事看板の製作を行いました。看板の前で、親子や親しい子ども達同士で、記念写真を撮影することがよくあります。その写真は、親子でも、親しい友達間でも、一生の思い出になると思うので、そのデザイン、カラー、 またその画用紙などを駆使して、2日間にわたり製作に取りかかりました。初めに園長先生から、園行事の役割についてお話を頂きました。その後、学生同士で考えながら製作に取りかかりました。各々でアイデアを話し合いながら、文字の見栄えなどを考慮して、大きさや文字の配置を決めました。看板として見た時に、見栄えがとても大きく、見やすく、そして印象として残りやすいように、実際の行事に合わせて想定して、製作に取り組むことができました。

主体的に取り組めたこと

発表会の看板の柱となる形を計測して、板の製作を主に取り組みました。他にも、画用紙を切り分けて、発表会の行事として分かるようなデザインを考えました。画用紙の折り方を工夫することで、より垂れ幕のように見えるようにしました。

看板のデザインを考えることです。 私は、大学1年生の時にもこの看板製作に取り組みました。そのため、その経験を活かしながら協力してデザインを考えることができました。

活動全体の達成感・感想・今後、頑張りたいこと

この企画を通して、園行事の役割を学ぶことができ、その役割を考えながら看板のデザインや製作をすることができました。計6時間の活動を行いましたが、時間ギリギリまで看板製作を行い、看板が完成した時には、とても達成感を味わうことができました。また、この活動に参加していなかったら関わることのない、他の学科の後輩とも関わることができたのでよかったです。

今後は、自己企画で、大府市内にある子育て支援施設で活動をしたいと思っています。そこでは、色々な子ども達と関わったり、保護者の方と交流することで、自己形成力や社会力を身に付けていきたいと思っています。

質疑応答

Q 看板で一番、「ここよい」と思うとこはありますか。

A 文字の背景に水色と黄色を使いましたが、色を統一せず2色に展開することで、より見やすく、明るい雰囲気を作れるかなという意識で看板製作に取り組みました。

Q 他学科の学生とはどのように関わりましたか。

A デザインを考える時に一緒に話しながら、看板製作の経験も踏まえ、「こんな感じで作った」よと言いながら後輩の学生と協力して作りました。

Q 活動を通じて、自分の大学生活に何か生かされましたか。何か変わりましたか。

A 初めに園長先生から、園行事の役割や保護者との関わりなどを学びました。今後保育士になったときに、すごく参考になると思いました。

実際にこども園で保育に携わる貴重な経験ができよかったと思いました。

Q 今回、1年生と関わるうえで気を付けた点を教えてください。

A 私達も経験したことがあると思うのですが、中学・高校生でも、先輩と関わる際、距離感を感じさせてしまう時があるかと思います。そのため、距離感を感じさせないようなコミュニケーションを心がけました。後輩達も一緒に馴染んで取り組めるような積極的な働きかけを意識しました。

縣 周慈 さん

学科・学年　健康スポーツ科学科　4年

企画種別　教員企画

企　画　名　こどもの学習支援活動

活動の内容・この活動に取り組むきっかけ・参加理由

大府市の公民館で、中学生を対象に宿題や課題を教える学習支援を行いました。この活動に取り組んだ理由は、1つは、自分が教員をめざしているためです。活動を選ぶ中で、将来に役立つことに取り組みたいとの思いから、まずは教員という立場を味わいたいと思ったのでこの活動を選びました。もう1つは、部活との両立ができたためです。この活動は土曜日の午後に開催することが多かったので、部活が終わってから近くの公民館に行って、生徒と触れ合い学習を支援することを行いました。

活動を通じて学んだこと

社会力と自己形成力が高まりました。社会力は、コミュニケーション力がとても育まれました。知らない子達や他の大学生もいて、コミュニケーションを取ることで、実際にどのような教育をするのか、または、他の人達がどういったことを目標にしているのかを聞くことで、自分の中の社会力が高まったと思います。また、生徒の中にも色々な事情を持った子がいました。家庭でうまくいかなかったり、学校がちょっと嫌だなっていう子もいたりした中で、その子に対して、学習だけでなくて、日々の相談にのることで、その生徒が元気になるように話をすることができたので、社会力が高まりました。自己形成力の面では、学習力が高まりました。自分は保健体育が専門だったので、あまり主要5科目が得意ではありませんでしたが、生徒に教えるためには、やはりある程度知識を持っていないといけないと思ったので、ボランティアをする前には、ちゃんと自分で予習をしたり、自分が分からないことであったならば、周りの人に聞いたり、生徒に教科書を借りて、あらためて勉強して、生徒に教えるだけでなくて、自分も勉強しながらその学習に対しての意欲も高めることができたので、このボランティアでは、その社会力と自己形成力がとても高まったと思います。

活動の感想・主体的に取り組めたこと

苦労したことは、生徒との関わり方です。学習支援活動には来るものの、なかなか勉強をしない子が多かったです。その子達をどのようにして学習に向き合わせるか、最初はうまくできませんでした。しかし、何回か通うことによって、子ども達が自分を認識してくれ、一人ひとりと向き合うことができました。子ども達は今、何をしたいのか、また、したいだけでなく、何をするべきなのかをしっかりと把握することで、その子達が学習に向き合えるように工夫することができました。

次に楽しかったことです。活動中にクイズを出す時間があったのですが、学生が主体で行うことができたことがとても有意義でした。やるべきことのみをするだけでなく、自分達で工夫しながら活動ができたことは、主体的に行動ができたことだと思います。

今後どのように生かしていきたいか

私は、体育の教員をめざしており、また、小学校の教員免許も取得しようと思っています。今回、中学生と関われたことは、教員をめざすうえでとてもプラスでありました。また、主要科目を教えられたことは、自分のその知識や技能を高めることになりました。今後の教員生活につなげていきたいと考えています。

質疑応答

Q 活動を始める前後で中学生のイメージに何かギャップが生まれましたか。

A 当初は、少なからず勉強に対してやる気があると思っていたのですが、実際はそうでもなくて、勉強が苦手、嫌いな子もいたりあるいは、他の生徒とたくさん話したいなど色々な事情を持って来ていることが分かりました。学習支援という場所で、生徒は色々なことを試したり、行いたいのだという気持ちがあることが分かりました。しかし、勉強をやらなきゃという気持ちが生徒にも少なからずあったので、そこを汲み取ることができたことがよかった点です。

Q 中学生への声のかけ方や働きかけで工夫したことは何ですか。

A 生徒と話すとき、勉強からではなく、普段の会話から始めるようにしました。いきなり勉強では、苦手意識や面倒くささなどの気持ちが勝ってしまうと思ったので、まずは、普段の生活など日常会話から始めることで、自然と勉強の流れに持っていくことができました。

Q 活動の反省点はありますか。

A 参加日に間があいてしまうと、生徒が私のことを忘れてしまったり、私が生徒の現状を把握できなかったりしました。毎週通って、生徒一人ひとりと向き合うことができればよかったと思っています。教員になるうえで、そういうことを目標にしているので、大学生のうちにもう少し向き合えればよかったと感じています。

Q 中学生と関わるうえで、大切にしていたことは何ですか。

A 挨拶をすること、しっかりと名前を呼ぶことを心がけていました。挨拶をしてくれる子もいれば、そうでない子もいましたが、まずはしっかり自分から挨拶をして、名前をしっかり覚えてあげることで、私に対して好印象を抱いてくれたように感じます。こうすることで、自分は生徒と関わりやすくなったと思っています。

Q 今まで人間力総合演習で色々な活動に取り組んで、どんな力が身に付いたと感じますか。

A 社会力が一番身に付いたと思います。私は、他人と関われる活動を選んできました。この学習支援や祭りのスタッフ活動、ごみ拾い活動などで地域の人と話す機会がありました。社会に出れば、友達だけではなく様々な人と関わらなければならないので、そういった力を、活動を通じて身に付けられたことが一番良かったです。

鈴木 慶人さん

学科・学年　健康スポーツ科学科　4年

企画種別　自己企画

企　画　名　バレーボール教室「ブイチタ」運営スタッフ

この活動に取り組むきっかけ・参加理由

バレーボールを知ってほしいという思いから、中学生や高校生にバレーボールを教える「ブイチタ」という団体を同期のメンバーで立ち上げました。この活動は教育事業として行っており、教員をめざす私にとって将来必要となる力が得られると感じたため、この活動を自己企画として取り組みました。

活動内容・達成感

この活動では、バレーボールの出張指導、生徒募集、指導内容の作成、活動の様子のSNSでアップするなどの仕事内容があります。バレーボールは教える人によって教え方、感じ方が複数ある競技だと考えています。私は、指導内容を統一した方がよいと考えていたため、主に指導内容を作成することを担当しました。コーチのバレーボールの感覚をすり合わせて、統一していくことによって、活動の規模を大きくすることができたと思っています。

生徒から喜んでもらえることはもちろん、保護者から好評をいただいた時に、達成感を感じました。まだ20代の私達の活動を認めていただき、お子さんに参加していただけたことは素直に嬉しいですし、出張指導の際、現役の教員から感謝されると、とてもやりがいを感じました。

活動を通じた学び・今後、高めたい力

この活動を通じて、現代の子どもの本質を観察することができました。大人が大人主観で、観察する子ども像は、ギャップがあると感じており、それを無くすために、私はバレーボールを通じたコミュニケーションがとてもためになりました。かなり具体的に子ども像を明確にすることができたので、社会力としてはもちろん、知的視力がかなり身に付いたと思っています。しかし、生徒や保護者のニーズに100％応えることはおそらくできていないと感じるため、お互いが満足できるような計画を立てて、指導法の質と量を増やしていく必要があると感じています。それを実現させるために、自分達の教える力やコミュニケーション力をさらに高めなければならないと感じました。私は生徒の内面や心理をとても気にかけるタイプなので、生徒とよりコミュニケーションを取っていきたいと思っています。より生徒の気持ちに寄り添って考える力を身に付けていきたいと考えています。

質疑応答

Q 今後その組織を継続もしくは拡大するうえで、たくさんの費用が必要となると思うのですが、継続するには、組織の中でどういうことが必要ですか。

A 継続についてはかなり大きな問題だと考えています。現在は大学4年生が多くおり、社会人になって愛知を出ていく人達もいるため、トップが変わる可能性もあります。そのため、継続の可能性については何とも言えないです。私としてはさらに下の世代がこの活動を引き継いでくれることが 一番嬉しいと思っています。

Q 子ども達と具体的にどんなコミュニケーションをとっていますか。

A 生徒は、私達から話しかけないと、なかなか生徒から話しかけて来ないので、バレーボールのことだけではなく、たまには他愛もない話や流行りに関する話題も挟んだりします。

Q 教え方は色々あってよいと思うのですが、なぜ統一しようと思ったのですか。

A 指導者によって指導内容に違いがあると、どちらが自分に合ったものなのか、中学生には分からないかもしれません。何も分からない状況で色々な指導があると迷ってしまうかもしれません。また、私達コーチ陣も力量の差があるので、指導内容をすり合わせる必要性もあります。こうすることで生徒が困ることが少なくなると思うので、統一した方がよいと考えています。

Q 中学生になると自分で考える能力が身に付いてきている子もいると思うのですが、子どもの考えを理解し、どのように指導していましたか。

A 知多ではあまりそういったケースはありませんでした。昔から競技をしている子達がそのような状況であれば、尊重しなければならないと思います。ただ、小学生のバレーボールと中学生のバレーボールとには違いがあると思っています。中学生はこちらがよい、こちらがやりやすいというのはあると思っているのですが、今の質問には回答が難しいです。

Q 今まで人間力総合演習で色々な活動に取り組んで、どんな力が身に付いたと感じますか。

A コミュニケーション力や話す力が身に付いたと感じています。以前、センター企画のコミュニケーション演習に取り組んだ時に、全然知らない人とディスカッションをしたりしました。そういう時もやはりコミュニケーション力は必要だと思いましたし、自分の意見が言えないとつまらないと思っていましたので。

林 虎之介さん

学科・学年　健康スポーツ科学科　4年

企画種別　人間力開発センター企画

企　画　名　大府東浦花火大会 企画スタッフ

この活動に取り組むきっかけ・参加理由・活動内容

私は、企画スタッフの副リーダーとして活動をしました。この中にもスタッフとして活動した方や実際に花火大会当日に遊びに来ていた方もいたと思いますが、約2万人の人々が来場する企画ということで、人間力総合演習の中でも、特に大規模であったと思っています。

初めは、当日スタッフとして当日だけ参加するつもりでした。しかし、オリエンテーションに参加した際に、人間力開発センタースタッフの佐藤さんから企画スタッフをするなら副リーダーを担当してくれないかという話を頂いて引き受けることにしました。最初は、完全に受け身状態で、リーダーの影に隠れたような状態でした。しかし、学生が担当するレクリエーションブースの準備を進める中で、想定していなかった仕事が色々と増えてきて、受け身の姿勢ではもうやっていけないなということに気づきました。そこから気持ちを切り替えて、リーダーともう一人の副リーダーを中心に、企画のブースを作り上げました。

身に付いた力・達成感

この活動を通じ、コミュニケーション力と自らで考えて行動する力が付いたと感じています。コミュニケーション力については、花火大会は私達学生のみではなく、社会人の実行委員会の方や大府青年会議所の方々と一緒に活動しました。その人達は、大府市内でお店を経営されていたり、会社の役員などを務めている方が多く人生経験が豊富な方々です。交流を通じて色々なお話を聞かせていただき、人生の糧が得られました。

自ら考えて行動する力については、自ら行動をしていくしかない状況に追い込まれたことで、気持ちが切り替わり、学生側から実行委員会の方へ打合せの開催をお願いしたり、学生だけで空きコマで集まり小道具を作ったり、企画に関する打合せをしたり、自身の行動が変わってきました。

当日は、70人を超える学生スタッフをまとめましたが、情報を簡潔に的確に伝えないと全員に伝わらないなどの難しさを感じたとともに、2万人という来場者の中で、人の流れ、誘導・案内、迷子・落とし物対応など困惑がありました。ですが、なんとか仲間や実行委員の皆さんの協力もあり、大成功で終えることができました。自分で考えて人を動かす立場の難しさを感じましたが、これらの体験は、これから社会に出る私にとって貴重な機会になりました。

質疑応答

Q 取り組むうえで一番難しかったことは何ですか。

A 花火大会のイメージが湧かなかったことです。以前の様子の写真等もあまりなく、2万人規模と言われても、そのような規模のイベントを企画したことがないし、そのような状態から企画を考えても材料がどれぐらい必要かや、どれぐらいの広さで計画したらよいのかが全く見当がつきませんでした。

Q 今まで人間力総合演習で色々な活動に取り組んで、どんな力が身に付いたと感じますか。

A コミュニケーション力だと思っています。4年間で、ゴミ拾いや不登校の子どもの居場所づくり、地域の祭りなどの企画に取り組みましたが、すべてにおいて、経験が豊富な地域の方や子どもと話すことで自身の知識量も増えましたし、 感覚としても社会人になるうえで、「あ、こういう感じなんだ」というイメージが掴めました。地域に貢献している方々がいるということを知ることができ、自分もそうなれたらいいなと思い、1つのモデルを見つけることができました。

発表を聞いた学生の感想

3人の活動を聞いて自分ももっと積極的にやらないとなぁと刺激を受けました。

主体的に活動できる活動が自分が成長出来ると感じた！

自己企画の発表を聞いて自分で行動し、自分で考えて行動をする大切さを改めて知った。

すごく自分の中で挑戦してみようという想いが大きくなった。勇気が出た。

企画することや自分から何かを発信する勇気がずっとなかったので、発表を聞いて挑戦しようと思いました。

活動発表をきいて、色々な活動内容や学べることが違ってもっと色んな活動に参加してみたいと思いました。

自分が何もしていない間に何か行動している人がいるということを知れて刺激をもらった。

コミュニケーション能力をあげるにも、新たな関わりを求めるにも自分から挑戦して行動することが大切だと改めて感じた。

色んな人が主体的に行った活動の話を聞いてすごく刺激を受けた。特に1番最後に発表した人は、すごく成長したと言っていたし自分が前の人の話を聞いてやろうと思ったことをみんなの前で発表していてすごいと思った。

60時間終わっているが、今回の発表聞いて、自分と同じ気持ち(やりたいけど1歩踏み出せない)の人が企画スタッフやっているのを知り、自分も殻を破りたいと強い気持ちが出た。

他の人の演習発表を聞いて自分も自己企画を行なってみたいなと思った。将来指導する職につきたいため、今のうちに中学校の部活動に指導をしにいって指導力を身に付けたい。コミュニケーション力をもっと身に付けたいなと思った。

色んな人の活動発表を聞いて、自分のためになるのがどんな企画なのかを考え直すことが出来ました。自分から企画を立てて、積極的に参加したいと思います。

自分は人見知りでコミュニケーション能力がまだまだなので、60時間は達して人間力自体は終わっているが今後も色々な人と交流したりとか自分の課題に向けて行動していきたい。

他の人の人間力の活動の発表を聞いて、同じ活動ばかりでなく、様々な活動を行うことで得られる力は沢山あると気づけたのでいろんな取り組みに参加しようと思います。

自分と同じ年の人が主体的に人のために動き、自分の苦手なことを克服しているのをみて刺激を受けました。自分も、そのような行動を起こせるようになりたいと思います。

同級生がこんなにも責任をもってボランティアを行っていることを知らなかった。自分も参加するだけではなく、学生の先頭にたつリーダーとしてボランティアに参加したいと思った。

活動企画一覧

人間力開発センター企画

令和6年2月1日時点

No.	企画名
1	「おおぶ子ども映画祭」での運営活動
2	「市民映画」をつくって、つながろう！街を変えよう！
3	「中日サバイバルキャンプ」サポートスタッフ
4	「杜の学校」杜チューター
5	コミュニティスポット"アローブ"をPRしよう！文化デザイン塾Neo2023
6	FC刈谷ホームゲームサポート活動
7	SDGsを知る～みんなで生きる多様性講座
8	SNSを駆使し愛知の魅力を世界に発信しよう！～観光×SNS
9	イルミネーションで大府を明るく照らそう
10	ウクライナ避難者の支援活動
11	カンボジアでの子どもの支援・交流活動（カンボジアスタディツアー）
12	コミュニケーション演習
13	コラビア交流会2023運営スタッフ
14	さくら会（北山地区老人会）と一緒につくるお楽しみ会

活動企画一覧

人間力開発センター企画

No.	企画名
15	スマイルビーチプロジェクト
16	わかばの杜交流イベントでの運営・調理活動スタッフ
17	延命寺フェス（大府市）企画スタッフ
18	外国にルーツを持つ小･中学校への対面･オンライン学習支援活動
19	学校が苦手な子と親の居場所づくり活動
20	学習支援・生活支援活動（大府市内小学校）
21	感動を届けよう！～大府東浦花火大会 運営活動～
22	公民館まつり「プチこどものまち」
23	高齢者を対象とした「スマートフォン体験講座」運営活動
24	防災人材交流シンポジウム2023「つなぎ舎」
25	子ども・地域の方との焼きいも・火おこし体験を通じてコミュニケーション力を高めよう
26	子どもが楽しめるワークショップに参画しよう～おおぶ文化交流の杜での子ども向け夏休みワークショップ～
27	第15回わくわく祭り企画・運営スタッフ
28	大府市内 児童(老人福祉)センターまつり

活動企画一覧

人間力開発センター企画

No.	企画名
29	子どもクリエイター講座「ＣＧ花火&ボクセルアートを作ってみよう」バイオリンの里おおぶメタバースオープン記念CG花火大会
30	子どもたちとアートでつながる～今年のテーマは「Wa」！
31	児童センター「あんぱんまん」「プレイデー」
32	長草公民館ふれあい文化まつりスタッフ活動
33	大府シティ健康ウォーキングでの甘酒提供活動
34	ガッカンユニフォームプロジェクト
35	目標達成に導くコーチングの手法を活用できるようになろう
36	学生と福祉をむすぶ情報サイトmusbunを活用した活動
37	車椅子ソフトボールを体験し障がい理解につなげる
38	共和西小放課後クラブ　レクリエーションスタッフ
39	第30回中部障がい者水泳選手権大会スタッフ
40	「たくと大府」日中一時支援事業
41	障害者支援施設「ゆたか苑」での利用者支援活動
42	大府市福祉・健康フェアでの活動

活動企画一覧

人間力開発センター企画

No.	企画名
43	新城市「寒狭川中部漁協」の魅力を体感し、発信しよう～フィッシングツーリズムのプロモーション活動～
44	新城市での体験学習を通じて地域社会と自分のキャリアを考える～スタディツアー
45	新城市の魅力を体感し、発信しよう～アウトドア・スポーツツーリズムのプロモーション活動～
46	親子向けクラシックコンサート等運営活動（「絵本の朗読」含む）
47	青少年が気軽に立ち寄れる「居場所づくり」活動～まるっとしゅくセン～
48	大府ふれあい食堂（子ども食堂）でのスタッフ活動
49	大府市のｺﾐｭﾆﾃｨｽﾎﾟｯﾄ「アローブ」をPRしよう！（文化デザイン塾Neo2023）
50	大府市少年少女発明クラブでの小学生への指導活動
51	大府市内子ども体育教室
52	大府市内小学1年生への体育指導～LISOBU元気はつらつプロジェクト～
53	第15回コラビアまつり　運営スタッフ
54	誰もが自分らしく働くために・女性リーダートークショー
55	地域と熱く繋がろう～大府夏まつり活動2023～
56	地域の方と一緒に地域のイベントに関わるつつじまつり運営補助活動

活動企画一覧

人間力開発センター企画

No.	企画名
57	令和5年度横根山自治区防災訓練での子ども向け紙芝居朗読等
58	竹でけん玉づくり教室＆神田公民館まつりブース企画・運営
59	中学生・高校生とスポーツをして交流しよう！
60	下呂市・馬瀬スタディツアー
61	合宿型社会貢献活動「ワークキャンプ」
62	第12回「心ひとつに3.11」運営スタッフ
63	東北スタディツアー2024
64	保育活動に学ぶ（至学館大学附属幼稚園での活動）
65	暴力のない社会を目指して・DVシンポジウム
66	子ども食堂、子どものイベントづくり活動スタッフ（大府市内全世代型サロン）
67	陸上競技大会の企画・運営活動～アイデアで大会を盛り上げよう

活動企画一覧

教員企画

No.	企画名
1	2026年愛知･名古屋アジア競技大会サポートプロジェクト
2	「シニアの健康づくり教室」における運動指導
3	「シニア健康づくり教室」体力測定と評価
4	「子ども体育塾」における運動指導
5	AAFエアロビック選手権大会2023.AAFダンスエアロビックフェスティバル スタッフ
6	Go Sustainable!　地産地消で卒業記念品制作
7	Volunteering in English Camp-At the Foot of Mt.Fuji-
8	アジア競技大会(2026/愛知･名古屋)に向けた普及活動愛知セパタクロー国際体験交流会運営ボランティア
9	アジア競技大会（2026/愛知･名古屋）の競技の普及に携わる！セパタクローカバディのイベント運営ボランティア
10	アジア競技大会を盛り上げよう！セパタクロー体験ブース運営支援
11	カンボジア教育支援NGO代表による特別講義
12	こどもと文学をつなぐ「第3回絵本フェス」の運営支援活動
13	こどもの学習支援事業　学習サポーター（小学生、中学生対象）
14	こども園行事の看板製作～一生の思い出になる看板を作ろう！～

活動企画一覧

教員企画

No.	企画名
15	ゴミ拾いのボランティア～クリーンアップ・ザ・ワールド
16	至学館大学水泳部の合宿帯同（栄養サポート）
17	ティーボール大会運営補助
18	ハラール食を通じて、働いているもしくは働くことに興味のある障がいのある方の交流会の運営をする
19	バリアフリーコンサート運営補助
20	マレーシアの大学生と多文化共生を考える
21	ラブリッジ名古屋サポートスタッフ
22	愛知県警察からの挑戦状-疑似捜査体験型GroupWork-
23	胃袋から始まる国際交流・異文化理解 マレーシア人によるマレーシア料理入門教室
24	海外の大学生（日本語履修者）と日本語で会話しよう！ ～Oklahoma State university & Universiti Malaya編～
25	外国にルーツを持つ子どものサポートWKY（地域多文化ネット）学習支援活動
26	刈谷市美術館　夏のわーくショップ2023
27	刈谷市美術館造形プログラム　「こどもの日スペシャル」「母の日スペシャル」

活動企画一覧

教員企画

No.	企画名
28	高齢者対象の健康づくり教室「頭とからだの健康づくり講座」の運営・指導
29	山の自然歩道の整備（応用編）　お花見のお手伝いを通して地域振興に貢献しよう
30	子ども（就学前児）が秋祭りの楽しさを味わえるには？
31	消防隊員とともに活動！外国人のための防災講座　運営サポート
32	第18回ワインフェスタin多治見修道院の会場スタッフ
33	障害のある方の活動を支える　ちゅ楽鼓運営支援（太鼓、リズム運動）
34	森の自然歩道の整備
35	子育て支援センターでの赤ちゃんのための手作りおもちゃ製作
36	子育て支援センターでの子育て座談会への参加
37	全日本総合エアロビック選手権大会2023中部地区大会スタッフ
38	大相撲の地方巡業を支え、伝統文化を理解しよう
39	大府市学習支援授業「まなポート」学習サポーター
40	大府市教育委員会教育支援センター（不登校児童生徒対象）で一緒にスポーツ活動しよう
41	第1回寺本明日香カップ運営スタッフ

活動企画一覧

教員企画

No.	企画名
42	第21回ニュースポーツフェスタ2023の運営補助（企画）
43	第22回人形劇団もぐら「こどもげきじょう」運営支援活動
44	第7回大府みんなでプラネタリウムを開催し、地域の方と星空を共有しよう
45	第7回日本バドミントン学会　運営活動
46	地域社会と自然をつなぐ「セレトナフェスタ2023」の運営支援活動
47	茶の手摘みを通して考えるSDGs：「お買い得さ」vsエシカル消費
48	仲間をまもり隊
49	附属図書館企画「世界のこどもの本展」の運営支援活動
50	北山公民館ふれあいまつりで、子どもたちと楽しもう
51	北山子どもチャレンジ大会で、子どもたちと楽しもう

令和5年度
人間力総合演習の学び
令和6年2月29日　発行

至学館大学人間力開発センター
〒474-8651　愛知県大府市横根町名高山55（1000号館2階121B）
Tel(ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ)：0562-46-1292（内線番号：132）
メール：human@sgk.ac.jp

@SGK_HUMAN_OFFICIAL

◀公式インスタグラムで人間力総合演習の様子
を配信しています！ぜひ、ご覧ください。